

## 沢内の産婆さん

母ちゃんは  
沢内の産婆さんだった  
東京から疎開してきた  
背が低くてちよつと太めの  
産婆さんだった

母ちゃんは  
喘息もちの産婆さんだった  
迎え人に急かされて  
雪道を喉を鳴らしながら行く  
産婆さんだった

母ちゃんは  
東京に帰りたくて  
よく父ちゃんに頼んでいた  
戦争が終わったらと宥められて  
涙ぐんでいる姿を何度も見た

母ちゃんは  
お七夜の祝いに呼ばれて行つた

九月の暗い山道を迎えに行つたら  
提灯の灯りが二つ見え  
お爺さんに送られて帰つて来た

おら家の孫娘は  
難産だったのを産婆さんに助けてもらった  
そういつてお爺さんは  
母ちゃんに  
何度も手を合わせて引返して行つた

私たち一家は  
戦争が終わつても東京へ戻らず  
そのまま沢内の人になった  
あの世でもきつと  
母ちゃんは産婆さんをしているだろう  
今は助産師と呼ぶそうだが  
やっぱり  
沢内の産婆さんがいい